

国立民族学博物館研究報告 vol.7-4; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	7
号	4
発行年	1983-03-22
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009243

1982.12 7 卷 4 号

国立民族学博物館 研究報告

●
フルベ語色彩語彙

——色彩基礎語彙に関する一考察—— 小川 了

中央アンデスの根裁類加工法再考

——とくにペルー・アンデスの水さらし技法をめぐって—— 山本紀夫

『マライ編年史』の代名詞

——KWIC にもとづく比較研究—— 崎山 理



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

7 卷 4 号

1982年12月

目 次

フルベ語色彩語彙 ——色彩基礎語彙に関する一考察——	小川 了	689
中央アンデスの根裁類加工法再考 ——とくにペルー・アンデスの水さらし技法をめぐって——	山本 紀夫	737
『マライ編年史』の代名詞 ——KWIC にもとづく比較研究——	崎山 理	788
彙 報		825
国立民族学博物館研究報告7巻総目次		829
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		830
国立民族学博物館研究報告執筆要領		831

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 7 No. 4

December 1982

OGAWA, Ryo	Color Terms in the <i>Pulaar</i> Language: A Reflection on Basic Color Terms	689
YAMAMOTO, Norio	Tuber Processing in the Northern Central Andes	737
SAKIYAMA, Osamu	Pronouns in the <i>Sĕjarah Mĕlayu</i> or Malay Annals	788

彙 報

(昭和57年7月～
昭和57年9月)

人事異動

(教育職) (昇任)

7月16日 第四研究部助教授 山本紀夫
(第四研究部助手)

評 議 員

氏 名	任 期
石井 良助	(57. 9. 15～59. 9. 14)
伊地智善継	(57. 9. 15～59. 9. 14)
市古 貞次	(57. 9. 15～59. 9. 14)
井上 光貞	(57. 9. 15～59. 9. 14)
岡本 道雄	(57. 9. 15～59. 9. 14)
木田 宏	(57. 9. 15～59. 9. 14)
北村 甫	(57. 9. 15～59. 9. 14)
窪 徳忠	(57. 9. 15～59. 9. 14)
久山 康	(57. 9. 15～59. 9. 14)
斎藤 正	(57. 9. 15～59. 9. 14)
沢田 敏男	(57. 9. 15～59. 9. 14)
鈴木 尚	(57. 9. 15～59. 9. 14)
直江 広治	(57. 9. 15～59. 9. 14)
中尾 佐助	(57. 9. 15～59. 9. 14)
林屋辰三郎	(57. 9. 15～59. 9. 14)
馬淵 東一	(57. 9. 15～59. 9. 14)
向坊 隆	(57. 9. 15～59. 9. 14)
山村 雄一	(57. 9. 15～59. 9. 14)
山本 達郎	(57. 9. 15～59. 9. 14)

運営協議員

氏 名	任 期
綾部 恒雄	(57. 9. 15～59. 9. 14)
石井 米雄	(57. 5. 16～59. 5. 15)
石川 榮吉	(57. 9. 15～59. 9. 14)
伊藤 清司	(57. 9. 15～59. 9. 14)
大島 襄二	(57. 9. 15～59. 9. 14)
川喜田二郎	(57. 5. 16～59. 5. 15)
甲田 和衛	(57. 9. 15～59. 9. 14)
富川 盛道	(57. 9. 15～59. 9. 14)

中根 千枝	(57. 9. 15～59. 9. 14)
山田 隆治	(57. 9. 15～59. 9. 14)
吉田 禎吾	(57. 9. 15～59. 9. 14)
伊藤 幹治	(57. 9. 15～59. 9. 14)
岩田 慶治	(57. 9. 15～59. 9. 14)
大給 近達	(57. 9. 15～59. 9. 14)
加藤 九祚	(56. 4. 1～58. 3. 31)
君島 久子	(56. 4. 1～58. 3. 31)
佐々木高明	(57. 9. 15～59. 9. 14)
杉木 尚次	(56. 4. 1～58. 3. 31)
祖父江孝男	(57. 9. 15～59. 9. 14)
竹村 卓二	(56. 4. 1～58. 3. 31)
和田 祐一	(57. 9. 15～59. 9. 14)

国際シンポジウムの開催

「東南アジアにおける歴史と農民意識」

日 時 昭和57年9月20日(金)～27日(金)

場 所 国立民族学博物館, 東洋紡績総合研
究所求是荘

摘 要 東南アジア世界は基本的には農民社
会によって構成されている。したがっ
て東南アジア世界へのもっとも現実的
かつ有効なアプローチは、そこにくり
ひろげられる農民社会を理解すること
にはかならない。

東南アジアの農民に関する人類学的
研究は、近年、着実につみかさねられ、
特に宗教儀礼、神話やシンボルなど、
いわば農民意識の現象に対する研究は
大いに進展したといえる。しかし一方、
日常あるいは危機における農民の行動
の背後にある意識やイデオロギーの解
明はほとんど未開拓のまま残されてき
た。このシンポジウムはこのような従
来の研究状況を前進させるために立案
されたものであり、東南アジアの農民
の意識とその変化を、歴史的なまた現
実的な展望のもとに探究しようとする
ものである。

組織委員会

委員長

梅棹 忠夫 国立民族学博物館長

委員

祖父江孝男 国立民族学博物館第一研究部長
 佐々木高明 国立民族学博物館第二研究部長
 伊藤 幹治 国立民族学博物館第三研究部長
 加藤 九祚 国立民族学博物館第四研究部長
 岩田 慶治 国立民族学博物館第五研究部長
 石井 米雄 京都大学東南アジア研究センター教授
 木村 誠 国立民族学博物館管理部長

ン大学
 Onghokham インドネシア大学
 James C. SCOTT エール大学
 Andrew TURTON ロンドン大学東洋・アフリカ学院
 Wan ZAWAWI セインズ・マレーシア大学
 石井 米雄 京都大学東南アジア研究センター
 中牧 弘允 国立民族学博物館
 大木 昌 名古屋商科大学
 清水 展 東京大学東洋文化研究所
 白石 昌也 大阪外国語大学
 田辺 繁治 国立民族学博物館
 内堀 基光 岐阜大学
 安丸 良夫 一橋大学

実行委員会

委員長

田辺 繁治 国立民族学博物館第二研究部助教授

委員

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究部助教授
 小山 修三 国立民族学博物館第四研究部助教授
 宮本 勝 国立民族学博物館第二研究部助手
 秋道 智彌 国立民族学博物館第二研究部助手
 久保庭伊佐男 国立民族学博物館管理部庶務課長
 湯浅 叡子 民族学振興会千里事務局長
 宇治日出二郎 民族学振興会千里事務局事業課長

参加者

Joel KAHN ロンドン大学ユニヴァーシティ・カレッジ
 Esteban MAGANNON 東南アジア研究・文献センター
 Chatthip NARTSUPHA チュラロンコー

日程

9月20日(月) (国立民族学博物館)
 受付
 9月21日(火) (国立民族学博物館)
 国立民族学博物館見学
 開会式
 キーノートスピーチ
 第1セッション：イバンとカリंगा
 9月22日(水) (国立民族学博物館)
 第2セッション：ベトナムとタイ
 9月23日(木) (国立民族学博物館)
 第3セッション：マレーシア
 9月24日(金)
 京都観光
 9月25日(土) (求是荘)
 第4セッション：インドネシア
 9月26日(日) (求是荘)
 特別講演
 第5セッション：総括と展望
 閉会式
 9月27日(月) (ホテル レークビワ)
 ビジネス・ミーティング
 解散

彙 報

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
須藤 健一	助手(第4研究部)	57. 7. 4	57.11. 2	アメリカ合衆国信託統治領(北マリアナ諸島ミクロネシア), アメリカ合衆国
小山 修三	助教授(第4研究部)	57. 7.10	57.11. 4	オーストラリア
松山 利夫	助手(第1研究部)	57. 7.10	57.11. 4	オーストラリア
祖父江孝男	教授(第1研究部)	57. 7.12	57. 7.25	大韓民国
松原 正毅	教授(第2研究部)	57. 7.18	57. 7.30	中華人民共和国
野村 雅一	助教授(第5研究部)	57. 7.19	57.12.27	ルーマニア, ギリシア, イタリア, フランス
藤井 知昭	教授(第2研究部)	57. 7.20	57. 9.20	ネパール
馬場 雄司	教務職員(第2研究部)	57. 7.20	57.10.10	ネパール
大塚 和義	助教授(第1研究部)	57. 7.22	57. 7.30	中華人民共和国
岩田 慶治	教授(第5研究部)	57. 7.29	57.10. 3	インド, スリランカ, ネパール
君島 久子	教授(第1研究部)	57. 7.30	57. 8.12	香港
周 達 生	外国人研究員 (第1研究部)	57. 8. 4	57. 8.15	中華人民共和国
吉田 集而	助教授(第2研究部)	57. 8.22	58. 2. 6	インドネシア共和国
崎山 理	助教授(第5研究部)	57. 8.22	58. 2. 6	インドネシア共和国
八村廣三郎	助手(第5研究部)	57. 9. 1	57. 9.30	アメリカ合衆国
庄司 博史	助手(第3研究部)	57. 9. 3	57.10.23	デンマーク, ノルウェー, スウェーデン, フィンランド
梅棹 忠夫	館長	57. 9. 5	57. 9.18	中華人民共和国
加藤 九祚	教授(第4研究部)	57. 9. 9	57. 9.30	ソヴィエト社会主義共和国連邦
松原 正毅	助教授(第2研究部)	57. 9.17	57.10. 3	中華人民共和国
祖父江孝男	教授(第1研究部)	57. 9.20	57. 9.27	大韓民国
長野 泰彦	助手(第1研究部)	57. 9.23	57.11.22	インド, ネパール
福井 勝義	助教授(第3研究部)	57. 9.25	58. 3.15	スーダン, ケニア
祖父江孝男	教授(第1研究部)	57. 9.30	57.10. 9	アメリカ合衆国
端 信行	助教授(第3研究部)	57. 9.30	58. 3.17	リベリア, カメルーン, フランス, 西ドイツ

来館者抄

7月3日 Wahyono M. (インドネシア共和国, インドネシア国立博物館)
 19日 許 里 (中華人民共和国, 故宮博物院副院長)
 蕭 正文 (中華人民共和国, 故宮博物院副院長)
 呉 空 (中華人民共和国,

故宮博物院办公室主任)
 20日 東京都江戸・東京博物館建設懇談会委員
 小木 新造 (桐朋学園大学教授)
 児玉 幸多 (学習院大学名誉教授)
 渡辺 保忠 (早稲田大学教

- 授)
田村 和寿(都市計画連合ア
トリエ代表取締役)
- 7月20日 香月 秀雄(千葉大学長)
- 27日 玄 容 駿(大韓民国, 濟州大
学教授)
- 29日 平松 道子(アメリカ合衆国,
フットヒル大学教授)
- 30日 森 主一(京都大学名誉教
授)
- 8月11日 王 崧 興(香港中文大学教
授)
- 26日 田中 義人(山口県立博物館
長)
- 石原 啓司(山口県立博物館副
館長)
- 9月3日 山本 鉾(中部工業大学副学
長)

国立民族学博物館研究報告 7巻 総目次

7巻1号

杉本 尚次：トレス海峡地域の集落と住居……………	1
周 達生：客家文化考——衣・食・住・山歌を中心に—— ……	58
馬淵卯三郎：チャフルのイシル語歌謡……………	139
八杉 佳穂	
WATANABE, Hitoshi: Systematic Classification of the Pit Dwellings of Modern Food-gatherers from an Ecological Point of View……………	169

7巻2号

垂水 稔：ムラという結界——滋賀県高島郡朽木村の事例をめぐって—— ……	197
重松 伸司：南インドの右手・左手集団と祭礼騒擾 ——カースト伝承と儀礼を中心に—— ……	303
杉藤 重信：家屋の建築・修復に関する伝統的知識と技術 ——ミクロネシア・エラート環礁の場合—— ……	349

7巻3号

和田 祐一：北ハルマヘラ諸語の子音対応とガレラ語の示す古音……………	423
NAGANO, Yasuhiko: A Historical Study of gLo Tibetan ……	472
八杉 佳穂：マヤ文字の言語……………	514
柴田 紀男：『ムラユ王統記』におけるマレー語動詞文の構造 ……	534
吉田 集而：会話場面における人の概念の類型論（I） ——人称代名詞の <i>efic</i> な成分の再考 —— ……	550
荒井 芳廣：ブラジル北東部における民衆の小冊子 ——リテラトゥーラ・デ・コルデル——……………	585
藤野 淑子：明治初期における山村の食事と栄養 ——『斐太后風土記』の分析を通じて——……………	632
及川 昭文：博物館とコンピュータ……………	655
Raymond VÉZINA	

7巻4号

小川 了：フルベ語色彩語彙——色彩基礎語彙に関する一考察—— ……	689
山本 紀夫：中央アンデスの根裁類加工法再考 ——とくにペルー・アンデスの水さらし技法をめぐって——……………	737
崎山 理：『マライ編年史』の代名詞 ——KWIC にもとづく比較研究——……………	788

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のシミ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

(1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。

(2) 文献の記載は、著者名、年号、論題(タイトル)、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330.

Bohannon, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthro-
pology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The Uni-
versity of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 7卷4号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

伊 藤 幹 治

〔編集委員〕

石 森 秀 三

煎 本 孝

大 森 康 宏

小 川 了 彦

長 野 泰 毅

松 原 正 毅

守 屋 毅

山 本 紀 夫

昭和 58 年 3 月 22 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 7卷4号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市千里万博公園10-1

TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立壳通小川東入

TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.7 no.4
December 1982

OGAWA, Ryo

Color Terms in the *Pulaar* Language: A Reflection on Basic Color Terms

YAMAMOTO, Norio

Tuber Processing in the Northern Central Andes

SAKIYAMA, Osamu

Pronouns in the *Sĕjarah Mĕlayu* or Malay Annals

ISSN 0385-180X



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151